

## 平成25年度全国油症治療研究会議より〔その3〕

油症の治療開発研究を行っています。

長山淳哉先生はクロレラのダイオキシン排泄作用を検討する試験結果を報告されました。九州大学病院メディカルインフォメーションセンターの徳永章二先生も、同じ試験結果の検証解析を報告されました。

**<報告内容>**

長山淳哉先生はクロレラを8カ月間服用した前後、8カ月間服用しなかった前後で血中のダイオキシン類を測定した試験結果を報告されました。報告では今回の試験期間中、服用あり群も服用なし群もダイオキシン類の血中濃度の平均値は時間の経過とともに増加しました。しかし、服用あり群の増加率は服用なし群に比べて有意に低いという結果でした。長山先生は服用あり群で増加率が減少したのでクロレラが血中ダイオキシン類を排泄していると結論付けられました。今回の研究会議では徳永章二先生にも検証解析を報告していただきましたが、長山先生とは同じ結論が得られませんでした。ダイオキシン類濃度が1年4カ月の短期間で増加したということは、これまでの油症検診結果の年次変化の観察結果と反しています。少人数での服用試験ですので、測定値の僅かな誤差や変動、解析法によって結果が左右された可能性もあります。クロレラを服用してもダイオキシン類濃度は増加しておりますので、この結果をどのように解釈したらいいのか、クロレラにダイオキシン排泄効果があるか、現時点で結論をだすことができない状態です。

九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センターの内博史先生はアダパレン(ニキビの治療薬)臨床試験のまとめについて報告されました。

**<報告内容>**

アダパレンゲルを12週間外用する臨床試験を行いまし

た。15名の油症患者さんが参加し全員が終了しました。重大な有害事象はありませんでした。他覚的皮膚症状重症度では比較的軽度な面皰、瘡瘡様皮疹において改善を認めました。

九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センターの内博史先生はダイオキシン研究の最近の進歩について報告されました。

**<報告内容>**

1. AhRの新規標的遺伝子としてCCL5 (RANTES) を同定しました。ケラチノサイトをAhRのリガンド(ベンゾピレン、FICZ)で刺激するとCCL5の産生が低下することを示し、またこの抑制効果がAhR遺伝子のノックダウンにより回復することを明らかにしました。
2. 治頭瘡一方がベンゾピレン誘導性のCYP1A1発現増強を抑制することを明らかにしました。さらにこの抑制効果は治頭瘡一方を構成する生薬の一つである川芎に含まれるZ-ligustilideによることを明らかにしました。

**医療関係者への普及啓発について**

九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センターの古江増隆先生は油症パンフレットの作成について報告されました。

**<報告内容>**

これは全国の医療関係者の参考になるように最新の情報を盛り込んだものを計画しており、今年度中に発行する予定です。

問い合わせ先：全国油症治療研究班 班長 古江 増隆 (ふるえ ますたか)  
〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 九州大学医学部皮膚科教室  
TEL 092-642-5582/FAX 092-642-5600

